

# 平成28年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年12月11日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東  
 コード番号 2929 URL http://www.pharmafoods.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祐  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部部长兼 総務部部长 (氏名) 益田 和二郎 TEL 075-394-8600  
 四半期報告書提出予定日 平成27年12月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年7月期第1四半期の連結業績（平成27年8月1日～平成27年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年7月期第1四半期	640	—	△374	—	△341	—	△338	—
27年7月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 28年7月期第1四半期 △355百万円 (—%) 27年7月期第1四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年7月期第1四半期	△11.66	—
27年7月期第1四半期	—	—

(注) 平成28年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年7月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年7月期第1四半期	4,698	3,131	66.5	107.6
27年7月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 28年7月期第1四半期 3,124百万円 27年7月期 一百万円

(注) 平成28年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年7月期の数値は記載しておりません。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年7月期	—	—	—	—	—
28年7月期	—	—	—	—	—
28年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 平成28年7月期の連結業績予想（平成27年8月1日～平成28年7月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,400	—	△400	—	△365	—	△370	—	—
通期	3,150	—	30	—	100	—	80	—	2.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注) 平成28年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
 新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－  
 （注）特定子会社の異動には該当いたしません。当第1四半期連結会計期間より、「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を設立したため、連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無  
 ② ①以外の会計方針の変更：無  
 ③ 会計上の見積りの変更：無  
 ④ 修正再表示：無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年7月期1Q	29,034,200株	27年7月期	29,034,200株
② 期末自己株式数	28年7月期1Q	一株	27年7月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年7月期1Q	29,034,200株	27年7月期1Q	28,941,000株

（注）当社は、平成27年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって分割する株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。四半期報告書の提出は従来、四半期決算短信の発表日と同日に行って行っておりましたが、当第1四半期連結会計期間より連結決算を開始したことに伴い、監査手続の日数が増加し、四半期報告書提出予定日を12月14日としております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当社は、当第1四半期連結会計期間より「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を設立し、連結子会社としているため四半期連結財務諸表を作成しております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融緩和政策の継続を背景に、輸出企業の業績や雇用情勢が改善し、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような環境下において、当社は「医薬」(Pharmaceuticals)と「食」(Foods)の融合「ファーマフーズ(Pharma Foods)」を目指し、積極的な事業展開を行ってまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は640百万円となりました。利益面では、通信販売事業において将来を見据えた積極的な先行投資を行い、広告宣伝費518百万円を計上した結果、営業損失は374百万円となりました。この他、創薬事業等による補助金収入15百万円、持分法による投資利益15百万円等を計上した結果、経常損失は341百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は338百万円となりました。

(注1) 当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(注2) 当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分の見直しを行っております。前年同四半期との比較は、当第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、記載はしておりません。

各セグメントの業績の概要は、次のとおりです。

## &lt;機能性素材事業&gt;

機能性素材事業では、当社の根幹事業である機能性素材の開発、販売及び機能性素材を配合したOEM(original equipment manufacturer)製品の企画、販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間では、「GABA(ギャバ)」の展開に注力してまいりました。国内では「機能性表示食品制度」への取り組みを進めてきた結果、「GABA」を配合した新製品の機能性表示が受理され、今秋から機能性表示食品「GABAX(ギャバックス)」が発売開始されております。「GABA」の機能性表示に関する関心は高まっており、引き続き積極的な営業展開を進めてまいります。

海外では、中国において前期より複数の世界的な大手メーカーと「GABA」の取引を開始しております。今期に入りましても引き続き積極的な営業展開を行っております。また、北米市場においても順調に推移いたしました。

この他、機能性素材製品として、卵黄由来ペプチド「ボーンペップ」、当社の根幹技術による「鶏卵抗体(オポプロン)」、葉酸を高含有した「葉酸たまご」、卵白由来ペプチド「ランペップ」、ヒアルロン酸産生促進素材「iHA(アイハ)」等の各素材を販売しております。

開発面においては、新規素材である発酵青バナナ末由来の「バナファイン」の開発を株式会社ドールと共同で進めてまいりました。同素材の摂取によるインフルエンザの予防効果を検証し、11月に開催された日本ウイルス学会学会学術集会にて学会発表を行っております。「バナファイン」は、大きな注目を集めており、同素材の事業化を推進してまいります。

この他、卵黄由来の新規育毛活性ペプチド「HGP(Hair Growth Peptide)」、鶏軟骨由来のヒアルロン酸産生促進素材「HAS-II(ハス・ツー)」、卵白由来の筋力低下抑制素材「サルコペップ」、酵母由来の美白素材「セレプロン」等の開発を進めております。

OEM製品の販売では、サプリメントメーカーや製薬メーカーへ向けて、積極的な営業展開を行ってまいりました。前述の機能性表示食品「GABAX」がOEM製品として、株式会社プロントより販売されております。この他、流通業等への積極的な営業展開を進めてまいりました。

これらの結果、機能性素材事業の売上高は214百万円、セグメント利益23百万円となりました。

## &lt;通信販売事業&gt;

通信販売事業では、B to C事業の拡大を進めてまいりました。膝関節用サプリメント「タマゴサミン」、「珠肌石鹸(たまはだせっけん)」、美肌クリーム「珠肌のうみつ」等を販売する「タマゴ基地」では、将来を見据えた積極的な先行投資を実施し、ラジオ、テレビを中心に広告宣伝を展開してまいりました。

「タマゴ基地」の定期顧客数は、前期末(7月末)の23,850件から、10月末時点では、45,000件を突破し、大幅に伸長しております。

主力製品である「タマゴサミン」が好調に売上を伸ばしている他、「sognando (ソニヤンド)」ブランドとして販売の「珠肌石鹸」、活性卵殻膜を配合した美肌クリーム「珠肌のうみつ」も寄与し、売上は大きく伸長しております。

8月には、コールセンター業務を行う新会社「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を福岡県に設立し、コールセンター機能の強化を図っております。

これらの結果、通信販売事業の売上高は420百万円、セグメント損失371百万円となりました。

先行投資を積極的に行った結果、費用が先行発生し現時点での損益は赤字となっておりますが、将来の収益基盤となる顧客は順調に獲得できており、期初の予想を上回るペースで進行しております。

#### <バイオメディカル事業>

バイオメディカル事業では、創薬事業、医薬品・診断薬開発目的のための抗体受託作製事業及び各素材・製品等に関して分析・効能評価試験を行うLSI (life science information) 事業を行っております。

創薬事業では独自のニワトリ抗体作製技術「ALAgene (アラジン・Avian Lead Antibody GENE technology)」を用いて新たな免疫療法を確立する「関節リウマチプロジェクト」及び「悪性腫瘍プロジェクト」に注力しております。「悪性腫瘍プロジェクト」の研究成果を10月に開催された日本癌学会で発表し、がんの新たな免疫療法として大きな注目を集めております。

各プロジェクトとも製薬企業との共同研究契約の締結へ向けまして、事業化を進めております。

当第1四半期連結累計期間においては、抗体受託作製業務及びLSI事業の収入等により、バイオメディカル事業の売上高は5百万円、研究開発費の計上等により、セグメント損失25百万円となりました。

#### 【参考情報：前年同期との売上高比較】

	前期 (H26/8~10)	当期 (H27/8~10)	増減率
機能性素材事業	182百万円	214百万円	+17.8%
通信販売事業	129百万円	420百万円	+226.0%
バイオメディカル事業	5百万円	5百万円	+0.5%
合計	316百万円	640百万円	+102.3%

(注) 前期は連結財務諸表を作成していないため、当社単体での実績を記載しております。

#### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、4,698百万円となりました。

流動資産は3,385百万円となり、主な内訳は現金及び預金が2,499百万円、受取手形及び売掛金が480百万円となっております。

当第1四半期連結会計期間では、借入により850百万円の資金調達を行っており、現金及び預金が増加しております。

固定資産は1,313百万円となり、主な内訳は有形固定資産が728百万円、関係会社貸付金が186百万円となっております。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、1,566百万円となりました。

流動負債は981百万円となり、主な内訳は、未払金が526百万円、1年内返済予定の長期借入金199百万円となっております。

固定負債は585百万円となり、主な内訳は、長期借入金569百万円となっております。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は3,131百万円となりました。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年7月期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結会計期間の業績が概ね計画どおりに進行していることにより、平成27年9月11日に発表しました業績予想値から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社の異動には該当いたしません。当第1四半期連結会計期間より、「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を設立したため、連結の範囲に含めております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は平成26年7月期より継続して、営業損失および営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。当該事象により平成27年9月11日発表の決算短信において継続企業の前提に関する重要事象等の記載を行っております。

この要因は平成24年8月より通信販売事業及び平成25年9月より創薬事業を本格的に開始したことにより、将来を見据えた先行投資を、特に通信販売事業において積極的に行って来たことによるものです。

現時点では損失が継続していますが、各事業とも進展しており、通信販売事業では先行投資の結果、収益基盤となる顧客数は大幅に伸長し、期初の計画を上回るペースで進行しております。今後は効率の良い広告宣伝投資を継続するとともに、これまでに獲得した既存顧客へのフォローを強化していくことで、収支の改善が見込まれます。

また従来からの主力事業である機能性素材事業でも、国内及び海外での営業展開を積極的に行ってきた結果、売上は伸長しており、今後も更なる拡大を見込んでおります。

一方で当社の財政状態は平成27年10月末時点で自己資本比率66.5%、手元資金2,499百万円を有しており、事業を継続するための十分な資金を確保し、安全性を維持しております。

本年8月には、通信販売事業の拡大に備えた資金調達を借入により実行しており、各金融機関から中長期間にわたる資金を十分な条件で調達できております。

これらのことより、当第1四半期連結会計期間末において、継続企業の前提に関する重要事象は無いものと判断しております。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間  
(平成27年10月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,499,780
受取手形及び売掛金	480,760
商品及び製品	231,451
仕掛品	761
原材料及び貯蔵品	22,543
短期貸付金	30,462
未収入金	52,092
その他	71,262
貸倒引当金	△3,927
流動資産合計	3,385,187
固定資産	
有形固定資産	
建物	425,061
構築物	26,471
車両運搬具	17,173
工具、器具及び備品	228,526
土地	387,863
リース資産	16,703
建設仮勘定	2,160
減価償却累計額	△375,552
有形固定資産合計	728,406
無形固定資産	
のれん	1,844
その他	5,703
無形固定資産合計	7,547
投資その他の資産	
関係会社長期貸付金	186,951
その他	392,717
貸倒引当金	△2,277
投資その他の資産合計	577,391
固定資産合計	1,313,345
資産合計	4,698,533

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間  
(平成27年10月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	134,898
短期借入金	50,000
未払金	526,667
未払費用	48,091
未払法人税等	2,919
1年内返済予定の長期借入金	199,464
その他	19,756
流動負債合計	981,798
固定負債	
長期借入金	569,425
退職給付に係る負債	3,735
その他	12,017
固定負債合計	585,177
負債合計	1,566,975
純資産の部	
株主資本	
資本金	2,031,278
資本剰余金	1,881,982
利益剰余金	△819,806
株主資本合計	3,093,454
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	33,154
為替換算調整勘定	△2,453
その他の包括利益累計額合計	30,700
新株予約権	6,405
非支配株主持分	997
純資産合計	3,131,557
負債純資産合計	4,698,533

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成27年10月31日)
売上高	640,968
売上原価	206,804
売上総利益	434,164
販売費及び一般管理費	
研究開発費	58,180
広告宣伝費	518,796
販売促進費	2,714
支払手数料	94,471
役員報酬	17,760
給料及び手当	40,339
法定福利費	7,206
旅費及び交通費	9,081
減価償却費	3,005
のれん償却額	167
貸倒引当金繰入額	△147
その他	56,803
販売費及び一般管理費合計	808,379
営業損失(△)	△374,214
営業外収益	
受取利息	2,868
受取配当金	384
補助金収入	15,803
持分法による投資利益	15,055
その他	1,967
営業外収益合計	36,080
営業外費用	
支払利息	1,086
為替差損	1,898
貸倒引当金繰入額	295
その他	4
営業外費用合計	3,285
経常損失(△)	△341,419
特別利益	
新株予約権戻入益	2,135
特別利益合計	2,135
税金等調整前四半期純損失(△)	△339,284
法人税、住民税及び事業税	446
過年度法人税等	254
法人税等合計	700
四半期純損失(△)	△339,984
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,502
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△338,482

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成27年10月31日)
四半期純損失(△)	△339,984
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△8,914
為替換算調整勘定	△6,727
その他の包括利益合計	△15,642
四半期包括利益	△355,626
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△357,128
非支配株主に係る四半期包括利益	1,502

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成27年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計 (注)
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	214,843	420,808	5,317	640,968
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	214,843	420,808	5,317	640,968
セグメント利益又は損失(△)	23,367	△371,931	△25,650	△374,214

(注) セグメント利益(△損失)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。